

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越百景絵画展（一般の部&児童・生徒の部第3回展）
団体名	川越百景絵画展実行委員会
市担当課名	文化スポーツ部 市立美術館
事業の目的	川越百景を多くの人に知ってもらうため
事業の実施内容	<p>○緑陰写生会の実施 【日程】平成28年8月21日（日） 【場所（参加人数）】本丸御殿周辺（12名）、美術館界限（6名）、新河岸川氷川橋界限（10名）計28名</p> <p>○川越百景絵画展の実施 市内外の成人および市内の小中学生に、川越百景を題材にした平面作品を出品してもらい、審査の上選出された作品を公開展示する展覧会を実施する。 【会期】平成28年12月14日（水）から24日（日）ただし19日は休館 【展示数（出品数）】児童生徒の部：200点（1,130点）、一般の部：200点（200点）</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>川越美術協会：企画・運営全般、人材確保及び派遣、財源確保、事務局&amp;プロジェクトチームによる役割に応じた業務遂行</p> <p>市立美術館：会場提供、作品の收受・保管、整理・返却、広報活動インフォメーション</p>
事業の成果	<p>児童・生徒の部の参加校は42校、出品数1,130点、一般の部は出品数200点であった。来観者数：アートホール（児童・生徒の部）=2,206人 企画展示室（一般の部）=3,046人を数え盛況であった。今回は一般の部と児童・生徒の部が同時開催であったので、相乗効果が得られたものと思う。また、会期中に氷川神社の山車行事がユネスコの文化遺産に登録された祝いに、美術館が入場無料となり、観光客の観覧もあった。</p> <p>アンケートの抜粋：「皆さんの川越を大切に思う様子がうかがえた良い展覧会だった。」「自分の街を表現することはとても素敵なことだと思います。これからも続けてください。」「子供たちの、のびのびした美しい作品を観てとても気持ちが良かったです。」・・・等があり、当初の目的が達成された。</p> <p>最終日に、市長、市議会副議長、市教育委員会教育長のご臨席のもと表彰式を挙行了した。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>会場、人材、財源確保が必須。縦割り行政から横の連携を視野に入れたプロジェクトチーム編成で、A案＝公民館・文化センターなどの地域文化振興の拠点ごとに写生会を開催し、美術館で一挙に公開展示する。B案＝川越市の教育研究組織（図工・美術教育研究会など）が企画運営する</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>「みんなで描こう川越百景展」として、参加会費が必要な事業に改定するなどを検討中</p>

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	生活困難家庭の青少年へ対する学習支援事業「ひだまり塾（I期）」
団体名	チームひだまり
市担当課名	福祉部 生活福祉課
事業の目的	経済的困難のため高額な学習塾に通えない家庭の青少年へ対し学習支援を行う。経済的困難から物理的困難のみならず意欲喪失し生活に打ちひしがれている青少年がいる。学習支援は、基礎学力を身に付けさせ自信を回復させるとともに、支援し理解する者がいることにより自己肯定感を高めさせることが目的である。本会は、高校卒業資格取得まで継続支援する。
事業の実施内容	<p>2016年6月～11月にかけて、「ひだまり塾（I期）」を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施場所：「コミュニティカフェ ひだまり」（川越市川鶴2-11-1）</li> <li>2. 実施期間：2016年6月4日～11月26日土曜日（計25回） <ul style="list-style-type: none"> <li>6月 4日 11日 18日 25日</li> <li>7月 2日 9日 16日 23日 30日</li> <li>8月 6日 20日 27日</li> <li>9月 3日 10日 17日 24日</li> <li>10月 1日 8日 15日 22日 29日</li> <li>11月 5日 12日 19日 26日</li> </ul> </li> <li>3. 実施時間等（分類、実施時間、担当講師について） <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の部…10：00～11：30講師…教員OB 4人（うち外部講師3人）</li> <li>・中学生の部…19：00～21：00講師…大学生 外部講師のみ5～6人</li> <li>・高校生の部…19：00～21：00講師…大学生（在籍無し）</li> </ul> </li> <li>4. 実施方法：講師1人に対し生徒1人～4人の、徹底した個別指導態勢</li> <li>5. 生徒人数：小学生…4～11人、中学生5～6人、高校生0人</li> <li>6. 講師打合せ：毎回、塾終了後に講師の話合いを設け、生徒の学習理解や家庭の様子等を相互に把握。指導方針や課題等について打ち合わせた。</li> <li>7. 受講料：入塾希望者の保護者と面談し受講料を決定。</li> <li>8. その他：教材は学校使用のものを中心とし、学習習慣をつけさせ基礎学力を養わせた。そのうえで理解を深める参考書や問題集を与えて習熟させた。また高価な辞書・参考書・問題集等を塾で用意し貸し出した。</li> </ol>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割
	事業の周知。場所と講師を用意し'ひだまり塾'を実施する。
	川越市の役割
	市の関係課への連絡調整。広報。市の施策等の情報提供。

事業の成果	<p>①出席人数 合計 延べ247人  ・小学部 24回実施 延べ144人  ・中学部 24回実施 延べ103人</p> <p>②目標に対して  今年度は「小学生の早い段階から支援すること」と「外国にルーツを持つ子どもにも積極的にかかわること」を目標に実施した。  ・当初4人だった小学生が11人に増えた。母子家庭同士の紹介が多く、まだ増えている。基礎基本の学力を定着させられず困っている母子家庭の実態が見える。  ・参加している児童生徒が、似た境遇の困っている友人を「ひだまり塾ならば助けてくれるから」と紹介してくれる。  ・外国にルーツを持つ子ども（父子家庭・小学4年）は、昨年から誘い続けた効果があり、7月に参加した。ただその後、母親に引き取られて遠方へ転居したため関りは終了した。</p> <p>③学力向上について  ・子どもたちは基礎基本の学力がつくにつれ、自信のある落ち着いた顔になる。  ・不登校になりかかっていた小学2年女兒は学校を休まなくなった。  ・難病のため出席少ない⇒学力不足⇒自信を失う⇒登校しぶりの中学2年男子は、相談室登校ながら頑張っで登校するよう努力するようになった。</p> <p>④その他の成果  ・親同士の交流も深まり、親の心の居場所にもなっている。  ・一般会員から「ひだまり塾」への関心が高まり、子どもの貧困問題に目を向ける会員が増えた。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	<p>小学部講師を増員しなければならない。中学部では逆に大学生講師に余裕がある。謝金分配の工夫をして、大学生を小学部講師にするなど手配する。</p>
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>学習支援の有効性は高いので、本事業は継続する。  金銭面では、他の補助金や民間財団等の助成金獲得に努め、なるべく児童生徒の「受講料」を低く抑えるように配慮する。</p>

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	プレママつながり事業
団体名	NPO法人 川越子育てネットワーク
市担当課名	保健医療部健康づくり支援課
事業の目的	官民一体となり、産前から産後の切れ目のない支援を当事者発信で実施することにより、妊娠期から地域でつながりを作り、安心して出産、子育てができるようにする。また、先輩家族に参加してもらい、参加者から支援者へと変化していくモデルとなり、支援の循環をする。
事業の実施内容	<p>プレママとプレパパを対象に講座を企画・運営（全6回実施）</p> <p>○マタニティ・ヨガ&amp;プレパパ教室＋先輩家族、赤ちゃんとの交流会（年2回実施）ママがヨガをしている間、別室にてプレパパに講座やワークショップ、パパ同士の交流。先輩パパママから体験談を聞きながら赤ちゃんに触れ合う</p> <p>○プレママ交流会（年2回実施）プレママ同士が集い不安や悩みをワークショップを通じて話し合う</p> <p>○安産と母乳のはなし（年2回実施）産前の過ごし方、産後の身体の変化、赤ちゃんとの生活や母乳育児のコツなどの講話</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>当団体の役割</p> <p>① 企画の立案と運営</p> <p>② 産前から産後への切れ目のない情報発信</p>
	<p>健康づくり支援課の役割</p> <p>① 事業の信頼性の担保</p> <p>② 母子手帳配布時の情報告知への協力</p> <p>③ 妊婦教室や病院・企業等への情報告知への協力</p>
事業の成果	<p>29組の参加者様から“産前産後の切れ目のない子育て支援”において必要なサロンだと思いますか？の問いに対し100%で「はい」との回答がありました。理由としては、「産前と、子どもが大きくなるまでの間の情報がないから」、や「地域に根付いた必要な知識が得られた」などが挙がっています。</p> <p>また、先輩家族が支援者となり、体験談を話したり、0歳児と触れ合い体験をしたことで、具体的な産後の生活予測ができ、支援される実感から「他人と関係を持って子育てしていくことは、大切だと思った」などのコメントもありました。子育ての孤立化を防ぎ、社会への循環される支援の輪の体験になったと考えられます。</p> <p>また、項目ごとによかった内容についての問いでは、「プレパパとの交流」「プレママとの交流」などが上位にあり、つながりの実感の証ではないかと思われま。す。「1人で考えているより、交流の場に参加したほうが体も気持ちも楽になった」などの体験や産後支援情報は、産後に支援を切れ目なく受けられる礎となったと考え事業目的の達成と判断します。</p>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	<p>川越市提案型協働事業は3年目となり最終年度となります。</p> <p>来年度以降も当団体の独自事業となりましても継続した産前産後の切れ目のない子育て支援として本事業の継続をしていきたいと考えています。</p>

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	自然にやさしい福田田んぼ活動
団体名	福原ファームクラブ
市担当課名	農政課
事業の目的	日本人の「食」を支える「田んぼ」に関わる事で、生物多様性を育む自然を継続させると共に、一般消費者に対して「田んぼ」の重要性をアピールする事業。
事業の実施内容	福田地区に置いて、7月から10月にかけて「田んぼ」の実情を観察し、米の収穫作業を体験する。 田んぼの周りの環境を観察して米の収穫だけではない「田んぼ」の役割を理解し、次世代に残せる農業を考える。 7月10日 田んぼオリエンテーリング・田んぼ観察会 9月25日 稲刈り・収穫祭 10月9日 レンゲ蒔き・田んぼ観察会
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 米の収穫作業だけでなく、田んぼを観察することで田んぼの果たす役割を認識させる。農業に対する理解を深め、地産地消を消費者に促す。
	川越市の役割 イベント情報での掲載でなく、協働事業であることが一般の人に分かり参加者が増えるような掲載にしてほしい。
事業の成果	前年度の参加者等の口コミにより、協働提案事業募集の前「田植え」からの参加希望者が多く、7月スタート時の応募は6家族(20名)でした。  7月10日(日) 62名 田んぼオリエンテーリングと田んぼ観察会 9月25日(日) 98名 稲刈りと収穫祭 10月9日(日) 6名 水路での観察会 ※雨のためレンゲの種まきは10月14日(金)に延期し事務局で対応した。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	協働事業としては継続できないので、幼稚園や公共的な場所への働き掛けをしていく。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	北部地域を中心にした活動として継続。使用する道具は揃えたので、年間の会費を倍にしての活動が可能。但し、観察会においては、都内からの専門家の派遣依頼要請は難しくなる。

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	いのちの授業
団体名	医療法人愛和会 愛和病院
市担当課名	教育指導課
事業の目的	<p>学校の授業や家庭では伝えづらい「いのち」や「性」に関する話を、常にいのちに関わっている助産師だからこそ出来るやり方で子供たちに伝える。</p> <p>この活動を通じて「生きていることの素晴らしさ」、「いのちの尊さ」、「正しい性知識」について伝えていきたいと考えています。そして、この事業を通じて、自殺やいじめに苦しむ子供達が少ないことを願っています。</p>
事業の実施内容	<p>川越市内の小学校に「いのちの授業」の出張授業の募集を行い、希望する学校に実施する。また、内容については対象となる学年に応じて、以下内容を基本として柔軟に内容を変えつつ対応する。</p> <p>&lt;実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お産の大変さ、産まれた我が子への愛を分かりやすく伝える“お産劇”</li> <li>・「生まれる」ということがどれほどの奇跡かという事、そして性についての正しい知識を助産師からレクチャーする（生徒参加型）</li> <li>・自分がどれほど愛されて生まれてきたか、親から子への愛のメッセージを代弁する“詩の朗読”</li> </ul> <p>&lt;実施校及び実施日&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市立牛子小学校（平成28年10月28日）</li> <li>・川越市立高階北小学校（平成28年11月10日）</li> <li>・川越市立高階南小学校（平成28年12月1日）</li> <li>・川越市立寺尾小学校（平成28年12月9日）</li> <li>・古谷小学校（平成29年1月19日）</li> <li>・川越市立高階小学校（平成29年1月26日）</li> <li>・川越市立広谷小学校（平成29年2月9日）</li> </ul> <p>※対象は4年生（1校のみ2年生対象）</p>
事業実施時における市との役割分担	<p>市民活動団体等の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いのちの大切さ、両親の愛、生まれてきた奇跡について子供たちに知ってもらう。</li> <li>・川越市の子供たちへの正しい性知識の浸透。</li> </ul> <p>川越市の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業実施に向けて、各学校への連絡と調整。</li> <li>・本事業の目的達成のため、保護者・子供達に向けた事業内容の周知。</li> </ul>

<p>事業の成果</p>	<p>授業実施希望校を市が取りまとめてくれたためスムーズに実施校と実施時間を定めることができ、結果として当初の予定である5校を超えて7校で実施することが出来た。そして、協働事業自体も生徒へのアンケート結果から、命の大切さについて生徒にしっかり伝わっていたことが分かった。</p> <p>&lt;以下アンケート内フリーコメント抜粋&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> 受精卵の説明がとてもよくわかりました。今僕が生きているのは、両親やおじいちゃん、おばあちゃん、いろいろな人に助けられて、ここまで育ってこれたんだと改めて思い、今ここに生きていることに感謝して生きていこうと思いました。</p> <p><input type="checkbox"/> これから赤ちゃんを産むときに、いのちの授業で聞いたことを活かしていきたいと思いました。産まれたことが奇跡と知らなかったのも、産まれてきてよかったです。</p> <p><input type="checkbox"/> 授業をした後、すごくお母さんやお父さんに感謝しています。</p> <p>このような結果から、事業目的を達成できたと言える。</p>
<p>協働事業として継続する場合の課題と対応策</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施希望校が増えた場合の、当院助産師のマンパワーおよび、授業日程のスケジュールリング。</li> </ul> <p>&lt;対応策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師のマンパワーをどうするかは院内にて方針を検討中。授業日程については、今回の実施校のスケジュールを見ても、非常に近い日程の学校もあり、今後は学校側にも調整段階で日程について譲歩していただく場合もあると考えている。</li> </ul>
<p>補助金が終了した場合の当該事業の見通し</p>	<p>活動に必要な物品は購入出来たため、補助金が終了した場合でも当該授業を継続していくことは可能である。また、本事業の目的を達成するためには、継続的な事業活動が必要となる。それらを踏まえた上で、来期以降どのように事業を行っていくか院内で検討を行っていく。</p>

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	プレ・蔵と現代美術展2016
団体名	蔵と現代美術展実行委員会
市担当課名	文化芸術振興課
事業の目的	蔵の空間は現代美術等の展示発表に非常に有効で、インパクトがある。蔵の歴史性等と相まって相乗効果を醸し出す。 そこで我々は、蔵空間を利用した主に現代美術的表現であるインスタレーションをメインとする展覧会を試みることにした。
事業の実施内容	[開催時期] 2016年11月13日(日)～23日(水・祝) 11日間 [場所] 屋内施設8ヶ所、屋外施設3ヶ所、内合同展示施設2ヶ所 [企画内容] 2名の招待作家及び公募選考による作家7名による インスタレーションをメインとする展示 [選考者] 松永康 [招待作家] 大槻孝之(日大芸術学部教授) 瀬島匠(東北芸術工科大学芸術学部准教授)
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 美術家が蔵空間に潜んでいる歴史性をもう一度引き出し、その今日的意義を見直します。そして、そのことにより現代美術だけに拘らず、川越における蔵に繋がる文化全般の振興を目指します。 川越市の役割 広報等により、他の文化事業と併せたPR
事業の成果	今回のプレ展は来年の本展「第5回蔵と現代美術展2017」に対するプレ展だったが、参加メンバーの若返りと裾野の広がりを考慮して、今年平成28年に来年の第5回展のためのプレと位置付けて、「プレ蔵と現代美術展-2016-」を行った。 しかし、プレとは言え「蔵と現代美術展」は年ごとに拡大しつつあり、川越市内11ヶ所で2名の招待作家及び公募により選ばれた作家7名の計10名の作家と1チームによる展示が行われた。期間や予算の面で本展の半分以下で行われたが、若い作家の参加によりいろいろな可能性が見えて来ている。 来年は本展「第5回蔵と現代美術展2017」であるが、文化芸術面での蔵空間の掘り起こしは着実に進んで来ており、川越における蔵空間の活用に奥行をもたらして来ている。 会場はコンパクトに纏められていて、内容的にはバラエティーに富み、質が高いと好評を得た。観覧者は1会場900人×11会場で延べおよそ9900人。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	来年度の企画は既にほぼ完成しており、始動している。 ここの所、事業補助金を県の文化芸術拠点創造事業及び文化振興基金等より交互に支援を受けてきている。 今後も事業は続けて行くものの、3か年続けての協働事業支援は避けるようにしている。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	同上



平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	伝統「和楽器」演奏文化事業					
団体名	川越和楽器演奏クラブ「夕映え」					
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課					
事業の目的	普段接する機会が少ない屋外での生演奏を通じて、国内外からの観光客及び地元市民に、情緒豊かな城下町川越の「和」のイメージアップを図ることを目的とする。					
事業の実施内容	実施日	実施場所・時間・客数(概算)		実施日	実施場所・時間・客数(概算)	
	6/30(木)	伊佐沼「夕映え」 17:00~19:00 18人		9/17(土)	菓子屋横丁 13:00~14:30 30~40人	
	7/16(土)	菓子屋横丁13:00~14:30 30~40人		10/29(土)	菓子屋横丁 13:00~14:30 30~40人	
	8/20(土)	蓮馨寺 14:00~16:00 30人		11/1(火)	指扇トワーム 13:00~14:00 30人	
	9/10(土)	蓮馨寺 昭和の街感謝祭 16:00~17:00 40人		11/19(土)	ウエスタ川越 11:00~12:30 25人	
				11/26(土)	蓮馨寺14:00~16:00 30人	
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割					
	川越市の役割					
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2~5人位の演奏者で和楽器中心の野外演奏活動</li> <li>・ 市内各所施設でのボランティア演奏活動</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報活動等への援助</li> <li>・ 伝統和楽器文化の普及</li> </ul>					
事業の成果	<p>野外活動を中心に事業を実施したが、大きな課題として天候の懸念があったものの、昨年度も同様であったので、ある程度対応が出来た。特に蓮馨寺では昨年以上に集客が増えて定着が見込めるので、定期的なスケジュールを組みたいと考えている。なお、菓子屋横丁では、通りの一角の駐車場を利用させていただき、多くの観光客に和楽器の音色を届けることができたが、途中で地元住民からの苦情があり、やむを得ず演奏を中止することとなった。</p> <p>なお、計画では学校での講習を計画しており、所管課の担当者とともに校長会に参加し、事業の説明を行ったが、学校側からのアプローチがなくて実現できなかった。</p>					
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	野外での演奏には演奏場所によってさまざまな制約があるので、それに対応するような形でパフォーマンスを行っていくことが求められる。					
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	クラブ「夕映え」としては、和楽器の大衆化を目標としているので、補助金に関わらず、川越市に『和の音』を定着するまで継続していきたい。そのニーズと期待は演奏して強く感じている。					

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	東日本被災地の人達に励ましカードを届ける巡回展
団体名	自立の家つどい
市担当課名	学校教育課 学校管理課
事業の目的	震災から5年以上が経過し、災害の記憶や支援意識が年々風化しています。前年以上に被災地の人々の心のケアの一助となるべく、励ましカードの制作を小中・高校生に呼びかけていくことで、「今、被災地の人々に何が必要なのか」を若い世代とともに考え、取り組んでいきます。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校管理課を通じ、月例校長会に趣旨説明を行う。(7~10月)</li> <li>・まつり会館休憩室で観光客に励ましカードの制作を呼びかけた。</li> <li>・『励ましカードを届ける展示会』を実施 実施日：11月3日(木)~7日(月) 場 所：ウエスタ川越2階ワークショップ・情報コーナー</li> <li>・「第5回『国境を越えて心と心をつなぐクリスマスカード』展示会」に参加 実施日：12月24日(土)~27日(火) 場 所：福島市駅前「こむこむ館」2階</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・市内公立小・中・高校および特別支援学校へカード・ポスター等の作成を依頼する。 ・まつり会館休憩室や公民館で観光客と一般市民に協力を呼びかける。
	川越市の役割 ・会場の提供 ・広報(市広報紙への掲載等) ・市内公立小・中・高校および特別支援学校への呼びかけ
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校管理課を通じて市内小中高校に励ましカードの制作を呼びかけたことにより約2,000点の励ましカードを被災地に届けることができた。特に市内中学3年生の生徒から福島の中学3年生あての葉を依頼したことで、進路に悩む福島の学生を勇気づけることができたと思う。</li> <li>・まつり会館休憩室で励ましカード制作を呼びかけたことは、斬新な取り組みと評価され、市のイメージアップに寄与できた。</li> <li>・展示会実施の効果として特筆すべき点は、ウエスタ川越で行った展示会期間中に、同フロアで川越市と近隣の私立高校の文化祭が実施され、先生や多くの生徒が絵馬に心打つメッセージを快く書いてくれたことである(ひたすら感謝)。</li> <li>・市内各学校校長宛てに展示会の開催の周知を依頼したが、児童生徒・父母の来場は期待したよりも少なかった。今後の課題である。</li> <li>・福島の展示会に参加したことにより、川越の協働によるカード制作の取り組みが地元のテレビで取り上げられ川越のイメージアップにつながった。</li> </ul>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	被災地への資金援助は、小さなボランティアグループの私共には出来ないけれど、お金に替えられないものを裾野を広げ、多くの人に訴えていくことが課題と対応でもあると思う。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	次年度以降の励ましカードの取り組みは、中央大学名誉教授の田中先生のお気持ちを尊重しながら、色々な角度から検討し継続していきたい。

※様式第8号「川越市提案型協働事業補助金実績報告書」に添付してください。

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越市合唱連盟創立35周年記念演奏会
団体名	川越市合唱連盟
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	5年ごとに行う合唱連盟の特別演奏会 合唱団員に公募の一般市民、連盟団体からの有志を募り開催する 少年少女合唱団、バレエ連盟の協力もいただく 広く、音楽芸術の発表を通して川越の文化向上に寄与する
事業の実施内容	平成29年2月12日(日)、本市のウェスタ川越大ホールにて、連盟所属の有志、一般公募の市民を合唱団の核に、川越少年少女合唱団、県立川越高校音楽部、県立川越女子高校、県立浦和高校グリークラブ、川越市バレエ連盟の協力のもとプロのオーケストラを招聘し「オペラの名合唱曲」を演奏した。一般の川越市民、近隣遠方より1500名の聴衆を集め実施した。
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ウェスタ大ホールの確保(2年前)、合唱団員の募集、各団体との出演交渉、オーケストラとの交渉、練習日程・練習場所の調整確保、練習指導者・ピアニスト・ソリストの日程調整、広報活動、会議日程の調整、団員への連絡調整、リハーサル・本番・レプティションの運営等の総合的な運営全般(会計含)
	川越市の役割
事業の成果	一般公募の市民、市バレエ連盟関係者、少年少女合唱団、市内及び市外の高校の合唱部総勢約400名の出演者と合唱連盟の総力をもって、2月12日のウェスタ川越大ホールに1500名の聴衆を集め、盛大に華やかに格調高いオペラの名合唱曲を演奏した。聴衆も演奏者も大満足の声が多く寄せられ、文化都市川越に薫り高い音楽の華を咲かせることができた。
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	プロのオーケストラやソリストを招聘する場合、日程が最優先であるため2年以上前に演奏会場が決まっていないと交渉も始められないことが一番の課題である。次回は5年後であるが大きなプロジェクトになるため、3年前より具体的な計画を立て、準備を進める予定である。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	今回以上の経費が予想されるので、積立金を毎年重ねて準備金とする。そのため補助金が終了しても継続する予定である。

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	「里山讃歌音楽祭」KAWAGOE2016
団体名	尚美学園大学
市担当課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
事業の目的	・Farm（農）、Food（食）、Festa（祭）の3F運動の推進を通じて、小江戸川越地域ブランドづくりと地域活性化に貢献すると共に、市民に開かれ地域に根ざした音楽祭としての定着を図る。また、本音楽祭への参加を通して、川越や里山への関心や愛着を育み、地域に貢献したいと考える次世代の担い手達を育成していく。
事業の実施内容	●吹奏楽と合唱を中心としたコンサートの開催 【日時】平成28年12月23日（金・祝）14:00～16:30 【会場】ウェスタ川越大ホール 【出演】尚美ウインド・フィルハーモニー、尚美学園大学合唱団、埼玉県立川越総合高等学校吹奏楽部・音楽選択生、埼玉県立川越南高等学校吹奏楽部、OHSUMI&PRODUCE合唱団有志（市民参加） （＊詳細は別添のチラシ・記念誌を参照のこと）
事業実施時における市との役割分担	【市民活動団体等の役割】 ・音楽祭の企画・運営／・参加高校との連絡調整 ・ウインド・フィルハーモニー、合唱団の組織化・指導・練習 ・チラシ・ポスター・チケット・記念誌の制作・発行
	【川越市の役割】 ・音楽祭の開催告知・広報活動 ・川越市役所内の連絡調整
事業の成果	・当日の来場者数は、目視で約600～650名、モギリ数521枚、チケット販売数143枚と、昨年より100名ほど来場者数が減少したが、全曲通してじっくり鑑賞される方が増え、コンサートの質の向上が実感できた。 ・来場者の内訳は、一般来場客約25%、出演校関係者（保護者を含む）や招待者が約75%となっており、昨年比べ、一般来場客の割合が減少した。 ・実施アンケートでは、昨年より多くの77名（来場者の約15%）から回答協力が得られ、「大変よかった73%」+「よかった22%」=計95%と大変な好評を得た。また、男性の回答率が従来で最も高かったこと、選択形式・自由回答共に演奏に関するネガティブ評価が皆無だったことが特筆される。 ・本年度は、新たに川越南高校吹奏楽部が大学との合同演奏に参加。さらに30名の市民の合唱参加も得られ、地域への一層の定着と裾野の拡大が図られた。 ・参加者数（出演及び運営）約320名：高校生62名・大学生183名・大人約75名（指揮者・市民参加出演者・指導及び運営教職員）
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	・本年度は文化芸術振興課の手厚いご支援により、市内各所へのチラシ配布や、市やウェスタ川越の広報紙やWebを通じた告知活動も充分に行うことができたが、残念ながら直接的なチケットの販売促進には繋がらなかった。来年度は実売に結びつく広報ツールやメディアを工夫すると共に、一般受けするプログラム内容の検討も図っていききたい。 ・昨年度来の課題であった合唱の一般公募を今年も実現することができなかったため、来年度への継続課題としたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	・大学予算、協賛団体の呼集、参加団体からの参加費徴収等によって継続的に実施できるよう図っていく。

平成28年度川越市提案型協働事業補助金 事業実施報告書

協働事業名称	川越の街を描く（1, 2, 3、散歩下を向いて歩こう）
団体名	特定非営利活動法人あいアイ
市担当課名	福祉部 障害者福祉課
事業の目的	マンホールや地面を描く作品展示を通じて、知的障害者の芸術活動や発表の場を提供して、自立の一助とすると共に、アートによる交流や川越の街の良さを発信する。
事業の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品制作参加者の一般公募（5月～9月頃）</li> <li>○一般参加者とともに川越のマンホールを描く（8月～9月までの第2・4土曜日）</li> <li>○「下を向いて歩こう」展示会の実施 日時：10月13日（木）～16日（日） 会場：川越市立美術館1階（市民ギャラリー） 展示内容：川越市街のマンホールを中心とした絵画作品30点を立木の上に乗せ、床に展示</li> <li>○川越百景絵画展への出品（約20名が入賞）</li> </ul>
事業実施時における市との役割分担	市民活動団体等の役割 ・作品展の実施による知的障害者の活動・発表の場、就労機会の提供
	川越市の役割 ・展覧会会場の提供 ・広報による告知
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方々に下を向いて見ていただくことが出来ました。水道50年の年ということもあり、マンホールファンの方々にも楽しんで頂け、床に展示するという展示方法も功を奏し、高く評価されました。障害者の家族の方々からは、自信のない子がこういった作品展に参加出来、自信がついたとの報告を数多く頂きました。</li> <li>・団体のこれまでの活動を生かし、100社ほどに展示会実施のDMを送付し、少なくとも2社の企業が展示会に来られ、知的障害者1名を企業に紹介することができました（就業できるかどうかはまだ不確定です）。</li> <li>・狭山市、坂戸市、三郷市の教育委員会に事業への参加を働きかけたことで、川越市以外の県内市町村や各特別支援学校との交流が深まりました。</li> <li>・川越百景展に応募したところ、20名近くが入選し、川越在住のプロアマアーティストとの交流が生まれました（川越百景絵画展実行員会の前花委員長さんのご厚意によります）。</li> </ul>
協働事業として継続する場合の課題とその対応策	川越の街、特にポケットパークなどで発表することが出来なかったのので、次年度は計画していきたい。
補助金が終了した場合の当該事業の見通し	補助金は終了しても、当法人の事業として継続していきます。